

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越地域若者サポートステーション平成 27 年度事業報告について（公開）
- (2) 上越地域若者サポートステーション平成 28 年実施計画について（公開）
- (3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について（公開）
- (4) 上越地域若年者自立支援ネットワーク会議規約の改正について（公開）

3 開催日時

平成 28 年 7 月 28 日（木）午前 10 時 30 分から午前 11 時 45 分まで

4 開催場所

上越市役所 401 会議室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・会 員：小柳博行、井口剛、三浦弘栄、宮崎雅彦、藤田健男、杉田みゆき、漆間和美、小林泰心、渡部准次、中野了、柳沢幸也、渡辺和伸、笠原拓馬、中島恒光、宮崎研、早津之彦、山崎和俊、宮路省平、大坪浩樹
- ・事務局：上越市産業振興課 市川副課長、金融・労働係 高橋係長、神林主事、関根専門員
上越地域若者サポートステーション 吉岡総括コーディネーター

8 発言の内容

議題(1) 上越地域若者サポートステーション平成 27 年度事業報告について

(事務局)：吉岡統括

上越地域若者サポートステーション平成 27 年度事業報告について、資料No.1 に基づき説明する。

- ・ 27 年度サポステの利用状況は、新規登録者数が 61 人、相談件数が 1,011 件、進路決定者数が 31 人である。
- ・ 新規登録者数について、これまでは保護者だけが来た場合も登録としていたが、平成 27 年度から本人が来た場合のみ登録と変わったため減少した。
- ・ 出張相談会を上越市ではほぼ毎月行い、妙高市、糸魚川市ではひと月ごとに交互に行った。

- ・実務者会議を年1回開催し、17の関係機関から出席いただいた。

(杉田会員)

- ・コミュニティスペースについて、ホームページを見させてもらったが、昨年と比べると今年は活動的になっている。コミュニケーションを促進するために、コースター作りや化学の実験などで若者が集まっており、去年とは内容が少し違うと感じた。
- ・今年のコミュニティスペースの運営に関して、とても良くなったと思っているが、理念等変化があったのか。

(事務局)：吉岡統括

- ・今までコミュニティスペースについては、就労に関する講座の内容を盛り込んだものもやってきたが、中々それだけでは難しいと感じていたので、職員の今までの人生経験や経験値を取り入れて運営をしていこうという事で、色々新しいことも試行する事を心掛けている。何か作業する中で、グループワーク的な部分を取り入れて、我々と利用者という関係性だけではなく、当事者同士の関わり合いの中で、コミュニケーションや対人関係に対する不安感を軽減できればという事を考慮しながら行っている。

議題(2) 上越地域若者サポートステーション平成28年実施計画について

(事務局)

上越地域若者サポートステーション平成28年実施計画について、資料No.2に基づき説明する。

(事務局)

- ・28年度サポステの利用状況は、6月末現在で新規登録者数が19人、相談件数が286件、進路決定者数が14人である。
- ・出張相談会を上越市では毎月行い、糸魚川市ではほぼ毎月、妙高市ではひと月ごとに行う予定である。
- ・リクルートホールディングスと連携して、若者のための就職応援プログラム「ホンキの就職」を開始する。

議題(3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

(事務局)

上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について、資料No.3に基づき説明する。

- ・当会議の下部組織として実務者会議を開催している。
- ・今後も妙高市、糸魚川市とも連携し、上越地域全体での連携を図っていきたい。

(三浦会員)

- ・サポートステーションとの連携という事で、2つ紹介させてもらいたい。
- ・一つ目として、毎月ハローワーク糸魚川の2階会議室で出張相談を開催している。サポートステーションとは従来から糸魚川市の会場を借りて出張相談をしていたが、ハローワークの窓口相談が必要な若者が来所した際に、もっとタイムリーな”つなぎ”が出来るようにという事で、より定期的にもっと回数を多くできないかと小林事務局長に相談した結果、今年度の4月から第3水曜日をメインに出張相談を行う事にした。

- ・ハローワーク糸魚川の管内人口は非常に少ない状態であるので、毎回多くの若者が訪れるという状況ではないが、それでも毎回相談者が訪れていて、糸魚川にもそういう困ったときに窓口があると思っていただく事が重要だと考えるので、今後も継続していきたいと思う。
- ・先日3カ月連続で相談に訪れていた若い女性も、吉岡統括のご尽力によって、就職内定を得て大変喜んでいました。
- ・二つ目として、相談が必要な悩める若者に対する対応技術の向上を目的に、9月に吉岡統括をハローワーク糸魚川にお呼びし、所長以下職員全員に内部研修を行いたいと考えている。これは相談窓口の相談員からの要望があったためである。
- ・窓口悩める若者が訪れた時に、どうやってアプローチをすればよいのかというのが、分かるかと相談者から言われると答えに窮するため、彼らは何に悩んで、どのように手を差し伸べていけばよいのかを、相談窓口のスタッフ全員が学びたいと考えている。

(事務局)：吉岡統括

- ・サポステの支援は継続的に行うというのがすごく大事で必要な事だと思うが、糸魚川市は上越市から距離があり常設の事務所がないので、どうしても距離的な面で限界があるが、それでも三浦統括からご提案頂いて、そのような機会を設けて頂いた。
- ・糸魚川市の相談会について昨年度はひと月置きでしたが、それでは足りないという事で、今年はハローワークの中で部屋を借り相談する他に、糸魚川市から地区公民館を借りて毎月相談会を実施していきたいと考えている。

(杉田会員)

- ・元気塾では、1年くらいこちらで見ていて力が付いた若者にサポートステーションの事を説明して、両方使いながら就労にこぎつけないかと思う対象者が2名いるが、サポステ登録は本人が来所してキャリアコンサルタントと面談する必要があると言うと、今まで色々な連携機関を見てきているので、すごく抵抗にあう。
- ・私たちの目標としては、その人たちを是非サポートステーションに登録し、お互いにフォローしていきたい。実際に少し時間はかかるが、週の規定時間、ここに目標が挙げられた通りの時間を雇用して頂きたい。そういう若者に対してこちらへのアドバイスとか、していただける事とか、私たちがしなければならぬ事があれば、意見を聞かせてもらいたい。

(事務局)：吉岡統括

- ・ご本人たちが中々就労に向かってくれないという事は、我々の方に来られている方には多々ある事である。事業としては就労を目指さなければいけないが、ご本人たちの気持ちや、意向を無視して押し付けるなど、そういう事はあってはならない事だと思う。ご本人たちの状況をじっくりと見守りながら就労に近づくような形での支援が必要なケースは多くある。
- ・元気塾からサポステにという時、ご本人にすると敷居が高いとか、抵抗感があるという事なので、その辺りについて、例えばまずは交流などのプログラムを組み、その中でご本人たちの不安な気持ちなどが和らいでいきやすい環境作りというのは、出来る部分もあるのではないかと思います。そういった不定期プログラムなどに双方が参加し、交流を図っていく事も良いと考える。

(井口会員)

- ・ハローワーク妙高の若年者の方で、仕事を探して登録されるという方はいる。

- ・ただそれが自発的ではなく、親御さんや周りの勧めで、とりあえずハローワークに行ってみようという事で、本人の就労の意思が明確になっていない方も結構いて、そういう方は登録をしても、次に相談に来ていただける機会は、正直少ない。
- ・今回サポステの方で、先程資料No.2にもあったが、本気塾というのを今年始めたという事で、内容を見させてもらった。ハローワーク妙高に登録している若者の中で、これに参加した方が就職意識を高められるのではないかという事で、登録人数はそれほど多くないが、約10名の方にダイレクトメールでこのチラシを送って反応を見た。正直反応は良くなかったが、中には興味を示す方がいた。その内一人は今回参加できなかったが、私に対応した方の中では、非常に興味はあるという事で、参加するかどうするか非常に悩んでいた。
- ・その方はもともと意思決定に少し課題があったので、本気塾に参加される方というのは皆同じような人たちで、決して恥ずかしい事ではないなどの説明をしながら、何とかそちらの方へ出ないかという話をさせてもらった。ご本人は、行ってみたい気はするということで、本人ではなく私の方からサポステへ連絡して、参加したいという人がいるのでお願いしますと吉岡総括に話をした。その後どうしても本人の気持ちの整理がつかないのであれば、参加までに断ることもできるのだから、その時は自分できちんと電話をするように話をさせてもらった。後で聞いたら、残念ながら不参加という事だったが、不参加の意思を示して、見ず知らずのサポステへ連絡が取れたという事は、その方にとっては一歩前進なのかなと思った次第である。
- ・そのようにして少しずつ進めていくしかないのかなと、考えさせられる事例があったのでご案内させて頂いた。

(事務局)

- ・年に1度の会議なので、これまで説明のあった平成27年度の事業報告、今年度の計画、今後の連携等について、皆様から一言ずつお願いできればと思う。ご質問等をしていない方からお願いしたい。

(小柳会員)

- ・この4月から上越の安定所の職業紹介窓口就いて、悩める若者が多く来ているという状況は感じている。ハローワーク上越では普段の相談窓口以外で若者支援の窓口を設けているので、主にその窓口が中心になってサポステと連携を組んでいる。本日改めて現状を伝えてもらったので、これを基に若者支援の窓口業務を進めながら、連携をしていきたいと思うので宜しくお願いする。

(宮崎会員)

- ・15歳から若者サポートセンターの対象であり、当センターに登録されている方、両方に登録されている方がいる。その中で、障害をクローズにするかオープンにするかというのが大きな問題であり、ハローワーク、ご本人や親御さんの考えなど色々な問題があるが、少しでも就労につなげるように、若者サポートセンターと連携を図りながらやっていきたいと考えているので宜しくお願いする。

(藤田会員)

- ・えちご若者元気塾は、就職しなさいという事はあまり言わないでおり、主に若者の居場所である。家にばかり居て、当然ハローワークにも行けない、サポステにも行けない人で、何とか外出が出来るという人が来ている所である。ここで力を付ければ、サポステを紹介する。私の所では、家に代わる居

場所を提供しているが、あまり居心地が良すぎるとずっとそこに居てしまうので、時々にはストレスをかけて、サポステに行くようにしている。ストレスをかけすぎると、また家に引きこもってしまうので、その辺の兼ね合いがある。

- ・いつもお昼ご飯を一緒に作って食べる。メニューもなるべく若者に任せて、自分たちで作るようにしている。一緒にご飯を食べられなかった人でも、我々と一緒に食べるようになってくると、少し力が付いてきたかなと思う。それと、山にピザ窯を作って、時々行ってはピザパーティーをやるので、その時サポステにも声を掛けて、サポステの若者も一緒に行って出来たら良いと思っている。
- ・日本の伝統食である味噌作りも今年の2月に3回やり各自、家に持って帰ってもらう。大豆をつぶして糀や塩と混ぜて、ひと夏おいて熟成させるという体験をしていく。梅干しも一緒に作っており、日本の伝統食なので、きちんと伝えていきたい。
- ・居場所を提供しているので、少し元気がないなという方がおられたら、元気塾に連絡を頂ければと思う。

(渡部会員)

- ・産業界という立場で参加をしている。会員企業の中には、障害者の方を多く採用している所もあり、法律で、採用しなければならないという部分もある。そういう面では、機会がある毎に会員企業にはその旨を伝えている。
- ・年に1回の会議の中で皆様の話を聞くと、色々な事をやっているのだなと、つくづく考えさせられる。我々としては、一人でも多くの方を採用してもらえるように会員企業の方へご紹介をしていくしかないのかなと考える。

(中野会員)

- ・上越地域となると、上越市・妙高市・糸魚川市と3つの市にまたがっている。商工会連絡協議会としては17商工会があり、それぞれ温度差がある。皆さんの就労の場所として提供できる部分があるか無いかということは、非常に温度差がある。その前段で、私はこの会議に何年か出させて頂いているが、就労に向かう本人の気持ちをどう整理していくか、そこではじめて就労に結び付くような気がする。そういう上で非常に難しい部分があるかと思うが、本人の気持ちが上向くような形をどう作れるのか、私ども商工会連絡協議会としても就労場所をどう提供していけばいいのかという事を、再度考えながら、皆様方と連携をしたいと思っているので、宜しく願います。

(柳沢会員)

- ・高校の立場で初めて出席させて頂いて、まず一つは高校を中退した後の生徒のよりどころとしてのサポステの事業について、内容を把握することが出来てよかった。また、在学生在が対象ではないので、在学している生徒については、サポステの持っているノウハウを高校が学ぶ事も必要という気もする。そういった意味でも今後も連携をさせて頂くことが非常に大事だと思う。
- ・また、中退した生徒の情報を、個人情報との関係もあるのでなかなか共有を図ることは難しい所があると、話を聞いていて思った。サポステでしている事を、我々を介して、残念ながら中退していく生徒に伝える事は出来る。
- ・私の感覚だと、就業するために中退していく生徒はあまり多くなくて、例えば南城高校だと、就業しているあるいはアルバイトしている生徒が、学業と両立ができず辞めていく形が多いので、その辺と上手く需要と供給が合わないという所もあるという気もする。あくまでも中退した後の生徒のよりどころとして、今後また色々な立場で連携をさせて頂きたいと思う。

- ・それと一つ宣伝でもあるが、本校は通信制課程もあり、高校卒業資格を取って次のステップアップの窓口でもあるので、そういう所も選択肢の一つとしてあるのかなという気もしている。
- ・今日伺った話を地区の会議等で他の学校の方にも伝えていきたいと思っている。

(渡辺会員)

- ・保健所としては、引きこもり相談を窓口でやっている。大きな意味では心の健康相談という事で、医療機関へつなぐ、生活をこれからどうした方が良くというような相談を個別に受けている。保健所の相談という切り口で言うと、そんなに件数が無くて、去年は延べ件数で56件、実数では8人という統計だった。そういった方々を継続的に電話や訪問して家族の方とも話をしながら、上手い方向に、というような事をやっている。実質的な事では、サポステとか就労支援の施設の方々とつながっているかと思うので、今後とも宜しくお願ひしたい。

(笠原会員)

- ・地方公共団体の連携という事で、資料No.3の事業の概要という所にも何度か出てくるが、サポステを支援対象としている。上越地域では上越市・糸魚川市・妙高市の3市となるが、市町村がこのように一堂に会してネットワーク会議を開催するという事が非常に重要と思っている。今後もこのネットワーク会議を通じて、地方公共団体を含む関係機関の連携等を図っていけるよう、皆様には引き続き協力をお願いしたいと思う。

(中島会員)

- ・私どもでは、上越労働相談所を開設していて、上越地域の労働トラブルに巻き込まれた労働者の方からの相談を受け付けている。ニートの方、無職の方は相談に来られないというのが実情である。ただ稀に、生活保護を受けていて、働きたいとか、無職だが何かいいものは無いかという相談がある。そういう時はよく話を聞いて、サポステなどの機関を紹介しているというのが実態である。今後もそういう方が来たら、そちらの機関につなげながら対応していきたいと思う。

(早津会員)

- ・サポートステーションは平成26年に設置されて3年目に入っている。まだまだ市民に対する認知度が低いと感じている。いずれにしても市報や色々な媒体を使いながら、市民に、こういう機能があるというPRを積極的に今後もしていきたいと考えているので宜しくお願ひする。

(山崎会員)

- ・この4月から担当しているが、こういう形でサポートステーションがある事をあまり知らなかったもので、糸魚川市でも積極的にPRしていきたいと思う。昨年度作成した総合戦略の中でも、若者・女性の働く場所、就労・雇用は大きな課題と考えている所である。先程ハローワーク糸魚川の三浦統括から、糸魚川での月1回の相談会という事で、サポートステーションを含め大変感謝申し上げます。市としても最大限の支援をさせて頂きたいと思う。糸魚川市の雇用の関係で、就活フェアにサポートステーションの方からいつも派遣を頂いていて、これに関しても大変感謝している。引き続きまた宜しくお願ひしたい。

議題(4) 上越地域若年者自立支援ネットワーク会議規約の改正について

上越地域若年者自立支援ネットワーク会議規約の改正について、資料No.4に基づき説明する。

(事務局)

- ・規約の第7条3で「会議は、上越市産業観光部産業振興課及び上越地域若者サポートステーションが事務局として開催する。」としているものを、「会議は、上越市産業観光部産業振興課及び地域若者サポートステーション事業を受託する公益財団法人新潟県雇用環境整備財団が事務局として開催する。」とし、第9条の「本会の庶務は、上越市産業観光部産業振興課において処理し、実務者会議の庶務は、上越地域若者サポートステーションにおいて処理する。」としていたものを、「本会の庶務は、上越市産業観光部産業振興課において処理し、実務者会議の庶務は、地域若者サポートステーション事業を受託する公益財団法人新潟県雇用環境整備財団において処理する。」と文言を整えるもの。

(事務局)

- ・ご意見・ご質問等は特に無いので、第7条と第9条を一部改正する。
- ・他にないようであれば、以上で平成28年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議を終了する。

9 問合せ先

産業観光部産業振興課金融・労働係 TEL：025-526-5111（内線1266）

E-mail：sangyou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。